2008年度
環境活動レポート
（2008.03.01～2009.02.28）

【改訂履歴】
改訂1：2009.8.12

【エコアクション21認証登】	【環境活動レポート】
認証／登録日　2005.11.01	作成：佐倉井　2009.4.24
更新／登録日　2007.11.01	承認：佐倉井　2009.4.24
有　効　期　限　2009.10.31	改訂：佐倉井　2009.8.12

エコアクション21
認証・登録番号 0000488

会社名	株式会社　ブリッジ・メタウェア
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-23-5銀洋第2ビル8F
代表者	代表取締役　佐倉井　章
連絡先	TEL:045-313-2129　FAX:045-313-2179

目　次

No	主題/副題		P
Ⅰ.	**会社概要**	1)会社概要　2)事業活動の特徴と環境負荷概要	03
Ⅱ.	**環境方針**		04
Ⅲ.	**社内環境コミュニケーション**		05
Ⅳ.	**08年度の環境目標とその実績**		
1.	目標設定と調査していない負荷項目について	1)目標設定について　2)調査していない負荷項目について	06
2.	08年度の環境目標とその実績	1-1) 中期目標とその実績(CO2)	07
2.		1-2) 中期目標とその実績(廃棄物)	08
2.	08年度の環境目標とその実績	2)単年度目標とその実績	09
3.	項目別負荷実績	3-1 Co2排出量	10
3.	項目別負荷実績	3-2 電力使用量	11
3.	項目別負荷実績	3-3 ガソリン使用量	12
3.	項目別負荷実績	3-4 廃棄物総排出量	13
Ⅴ.	**主要な環境活動と計画の内容**		
1.	主要な環境活動計画の概要		14
2.	環境活動の内容	2-1 CO2排出量の削減(節電対策)　2-2 廃棄物の削減(ゴミの分別) 2-3 廃棄物の削減(紙類の溶解処理依頼)	15
2.	環境活動の内容	2-4 OA機器のリサイクル廃棄依頼　2-5 エコ商品の購入	16
2.	環境活動の内容	2-6 エコ推奨チェックリスト	17
2.	環境活動の内容	2-7 社内エコ促進活動　2-8 チーム-6%への参加　2-9 HP内環境ページの充実	18
2.	環境活動の内容	2-10 緊急事態の対応	19
Ⅵ.	**環境保全活動の取組結果の評価**		20
Ⅶ.	**環境関連法規への違反・訴訟の有無**		21
Ⅷ.	**09年度の環境目標**	1)単年度目標について	22
Ⅸ.	**09年度の環境活動計画**		23

Ⅰ. 会社概要

1）会社概要

表Ⅰ 会社概要

社名	株式会社 ブリッジ・メタウェア
事業所	〒221-0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町 2-23-5 銀洋第2ビル8F （注：2008.12 同ビル7Fより移転）
環境管理責任者	代表取締役 佐倉井 章
連絡先	TEL 045-(313)-2129 FAX 045-(313)-2179 e-mail bm-ea21@bridgemw.co.jp URL http://www.bridgemw.co.jp/
事業内容	ソフトウェアの開発・ネットワーク技術支援・web開発・ホスティングサービス
事業規模	2008年度 社員数：11.3名 事務所面積：173.25㎡ 税込売上：1.05億円 事業活動規模＝[売上/社員数]x[面積/社員数]x社員数＝16.10 （億円・㎡/人）

2）事業活動の特徴と環境負荷概要

2-1）事業活動と電力使用

インターネット接続環境を維持するためのサーバ群（ホスティングサービス用含む）は、24時間連続稼動を行っています。
また、それらサーバ群の環境温度調整のために、温調設備の稼働も行っています。
温調設備稼働による消費電力量は、「動力用」として、その他の消費電力量（「電灯用」）と別けて計測されています。
「動力用」の電力使用量は、温調設備を冷房用としてのみ使用するため夏場をピークとする季節変動があります。
「電灯用」の電力使用は、照明電灯及び事務機器（コンピュータを含む）によるものとなります。

2-2）事業活動と電力使用以外の環境負荷

当社の商品は、無形であるソフトウェアプログラムやシステムサービスの提供です。
このため、商品製造過程での化学物質の排出等はありません。
また、ガソリンの使用は、通勤経路内部分移動・事務機器一時移動・緊急時や打合先移動用として
借上げている車の利用によるもので、車の用途自体が商品の配達や巡回営業活動によるものではないため、
事業活動規模に比例する部分は、あまりありません。

Ⅱ. 環境方針

株式会社　ブリッジ・メタウェアは、「問題、ニーズから本質的な解決、サービスを「メタウェア」として創造提供すること。」という企業理念と行動指針をもとに、地球環境の保全に関して自主的かつ積極的な取り組みを行います。

1.環境管理体制　環境担当役員を代表取締役とし、環境管理の責任と権限を明確にして、環境保全活動を推進します。
2.法規制の遵守　国や地方自治体等の環境規制を遵守するとともに、自主管理基準を定めて、環境保全に努めます。
3.環境負荷の低減　事業活動において、CO2排出量の削減、省エネルギー、省資源、廃棄物の分別、削減の目標設定と定期的見直しを行ない、継続的な管理と改善に努めます。

1）CO2排出量の削減

a）　省エネルギー

■使用電力の情報収集を毎月行い、継続的な管理と改善に取り組みます。
コンピュータサーバ等の動作維持に必要な電力消費量は、その動作維持条件（台数、室温、湿度など）の見直し、照明を含めた節電や使用機器のエネルギー効率改善を含めた対策で取り組みます。

b）　省資源

■事務用品等の購入明細の情報収集を毎月行い、継続的な管理と改善に取り組みます。
エコマーク商品の優先購入、特にパソコンの購入においてはPCリサイクル等のリサイクル対応商品を対象とします。

2）廃棄物の分別、削減

■規定した分別廃棄の実施と廃棄時の減容量化に取り組みます。
■分別種類毎に廃棄量（概算の容量及び重量）の情報収集を毎月行い、継続的な管理と改善に取り組みます。
■情報セキュリティ対策
情報資産（個人情報を含む）の廃棄に関しては管理廃棄の対象とし、社内規程類に従い、裁断、破砕など必要な処置を加えるとともに、選定した廃棄委託先に処理を委託して廃棄情報等からの情報漏洩防止に取り組みます。

4.教育訓練　毎月１回の定例会議での環境情報の提供により、環境保全に向けた全従業員の意識高揚を図ります。
5.社会との共生　事業活動の場の提供元との環境保全活動に協力します。
6.環境基本方針の公開　このＢＭ－ＥＡ２１環境基本方針は、社内外に公開します。

株）ブリッジ・メタウェア　代表取締役　佐倉井　章

2008/08/05　改訂　V1.2
2005/04/02　改訂　V1.1
2004/07/12　初版　V1.0
2004/06/30　宣言

Ⅲ. 社内環境コミュニケーション

当社環境方針にて、
「毎月１回の定例会議での環境情報の提供により、環境保全に向けた全従業員の意識高揚を図る」(教育訓練)としています。
この定例会議時に、資料として月毎の環境活動報告書である「月次レポート」を作成し、EA21の取り組みに対するチェックを行っています。
当社での主な環境活動は、一ヶ月周期の**PDCAサイクル**(下図)であり、
かつ「月次レポート」を中心とした**「社内環境コミュニケーション」**です。その年間のまとめが「環境活動レポート」となります。

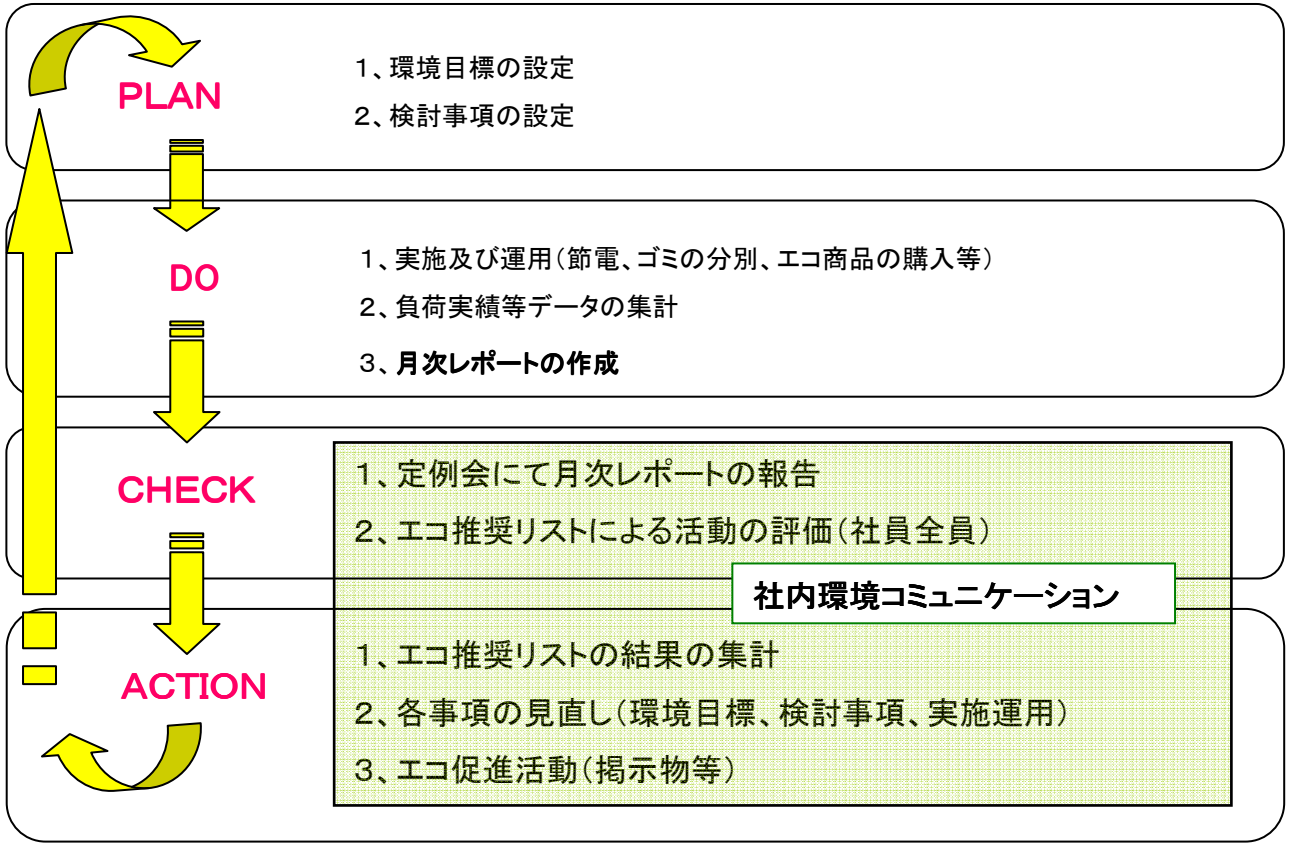

図 Ⅲ-1　一ヶ月周期のPDCAサイクル

Ⅳ. 08年度環境目標とその実績

1.目標設定と調査していない負荷項目について

1）目標設定について

1－1） 中期目標　■事業活動規模当りの二酸化炭素排出量の継続低減（～1割低減）

二酸化炭素の排出量の増加は、地球温暖化や酸性雨の原因となり、地球規模の環境問題となっています。
企業も、環境負荷の発生を抑制しながら事業の継続的発展を図ることが必要です。
このため、事業活動規模当りの二酸化炭素排出量を低減することを環境活動の目的とし、各年度とも事業活動規模当りの二酸化炭素排出量を前年度より低減（～1割低減）して継続していくことを目標とします。
事業活動規模の算定の要素には、売上、事務所面積、人員数、設備等がありますが、継続して各年度の二酸化炭素排出量の事業活動実績効率として評価するために、事業活動規模を以下で算出することとしました。

事業活動規模＝[売上/社員数]x[面積/社員数]x社員数＝ [売上・面積/社員数]　（億円・㎡/人）

1－2） 単年度目標　■各環境負荷の計画管理目標（前年度実績x事業活動規模比x0．9）による増加抑制・低減

二酸化炭素排出量の具体的な低減には、省エネルギー、省資源、廃棄物削減を心がけ、
事業活動での各環境負担を減らすことが必要になります。それぞれの環境負荷項目は、前述の事業活動規模の算定の要素から各年度で計画管理目標を設定し、最終的に事業活動規模当りの二酸化炭素排出量を削減できるよう活動を行います。
各年度の計画管理目標は、変化する事業活動規模比を考慮して量の増加がある場合、その増加量分の1割削減量をもって管理目標とします。

2）調査していない負荷項目について

・総物資投入量
当項目は「原材料・部品・包装材等の消費」という活動に伴う負荷チェック項目ですが、
当社の「物資投入量」は、この3点に含まれないと考えるためです。

・水資源投入量
「上水、工事用水、地下水等」を製品生産活動に使用していないためです。

・総排水量
排水をビル全体で管理しているため、会社単体での排水量の把握が困難なためです。

・化学物質排出量
製品生産の過程で化学物質の排出がないためです。

・総製品生産量
当項目は「製品の開発・設計等における環境配慮」の啓発を目的とした項目ですが、
当社の開発製品は無形であり、環境配慮に事実上関われないためです。

以上の理由により、上記5項目の環境負荷は測定していません。

Ⅳ. 08年度環境目標とその実績

2. 08年度環境目標とその実績

１－１） 中期目標とその実績（CO2）

■事業活動規模当りの二酸化炭素排出量の継続低減（～1割低減）

表 Ⅳ-2-1 事業活動規模（億円・㎡/人）と二酸化炭素排出量（t-co2)に関する中期目標とその実績

項目	基準年	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
事業活動規模：計画	5.81	9.11	12.19	21.51	32.01	35.12
① 規模比例：CO2	16.28	25.52	34.18	60.29	89.72	98.43
（CO2/事業活動規模）	（2.80）	（2.80）	（2.80）	（2.80）	（2.80）	（2.80）
② 目標：CO2	－	22.97	27.68	43.95	58.86	58.12
（CO2/事業活動規模）	－	（2.52）	（2.27）	（2.04）	（1.84）	（1.65）
事業活動規模：実績	5.81	10.87	12.94	20.16	16.10	－
③ 規模比例：CO2	16.28	30.47	36.27	56.49	45.12	－
（CO2/事業活動規模）	（2.80）	（2.80）	（2.80）	（2.80）	（2.80）	（2.80）
④ 実績：CO2	－	19.98	23.71	24.19	20.02	－
（CO2/事業活動規模）	－	（1.83）	（1.83）	（1.20）	（1.24）	－
①-② 削減計画：CO2	－	2.55	6.49	16.34	30.86	40.31
③-④ 削減実績：CO2	－	10.48	12.56	32.30	25.10	－
評価	－	○	○	○	○	－
⑤ オフセット：CO2	－	－	－	－	0.70	－

⑤のオフセット（08年度）の値(0.70 t-Co2) は、 年賀ハガキ（2.5Kg-Co2/枚）の購入（280枚）による

Ⅳ. 08年度環境目標とその実績

2. 08年度環境目標とその実績

１－２） 中期目標とその実績（廃棄物）

■事業活動規模当りの廃棄物排出量の継続低減（～1割低減）

表 Ⅳ-2-2 事業活動規模（億円・㎡/人）と廃棄物排出量（kg）に関する中期目標とその実績

項目	基準年	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
事業活動規模：計画	5.81	9.11	12.19	21.51	32.01	35.12
① 規模比例：廃棄物	877.65	1376.14	1841.40	3249.27	4773.61	5305.18
（廃棄物/事業活動規模）	(151.06)	(151.06)	(151.06)	(151.06)	(149.13)	(151.06)
② 目標：廃棄物	－	1238.53	1491.54	2368.72	3131.97	3132.65
（廃棄物/事業活動規模）	－	(135.95)	(122.36)	(110.12)	(97.84)	(89.20)
事業活動規模：実績	5.81	10.87	12.94	20.16	16.10	－
③ 規模比例：廃棄物	877.65	1642.01	1954.70	3045.34	2432.04	－
（廃棄物/事業活動規模）	(151.06)	(151.06)	(151.06)	(151.06)	(151.06)	－
④ 実績：廃棄物	－	843.00	790.60	417.00	513.00	－
（廃棄物/事業活動規模）	－	(77.55)	(61.10)	(20.68)	(31.86)	－
①-② 削減計画：廃棄物	－	137.61	349.87	880.55	1641.65	2172.52
③-④ 削減実績：廃棄物	－	799.01	1164.10	2628.34	1919.04	－
評価	－	○	○	○	○	－

表内（アンダーライン付）数値 の部分が計算ミス修正箇所になります。

Ⅳ. 08年度環境目標とその実績

2. 08年度環境目標とその実績

2）単年度目標とその実績

■各環境負荷の計画管理目標（前年度実績x事業活動規模比x0．9）による増加抑制・低減

表 Ⅳ-2-2 各環境負荷の計画管理目標とその実績

	07年度	08年度						
環境負荷項目	実績	事業活動規模前年度比	削減率	計画管理目標	実績	目標比較	計画実績比	評価
Co2	24.19（t-Co2）	1.15 売上計画比	0.9	25.04（t-Co2）	20.02（t-Co2）	＜25.04（t-Co2）	80%	○
電力	565.53（KMJ）	1.15 売上計画比	0.9	585.32（KMJ）	433.33（KMJ）	＜585.32（KMJ）	74%	○
ガソリン	36.73（KMJ）	1.0 車台数比	1.0	36.73（KMJ）	36.99（KMJ）	≒ 36.73（KMJ）	101%	△
廃棄物	417（kg）	前年度総排出量（産廃（事務机等）を含む）	1.0	417（kg）	513（kg）	＞417（kg）	123%	×

Ⅳ. 08年度環境目標とその実績

3. 項目別負荷実績

3-1　Co2排出量

08年度のCO2排出量は、20,020Kg-CO2の実績となりました。
このCO2排出量は、※管理目標：25,040Kg-CO2の80%に相当します。
※管理目標=前年07年度実績（24,190 Kg-CO2）×事業活動規模（売上計画比：1.15）×0.9（増分1割削減）
また、07年度実績に対し、前年比83%となりました。
Co2排出量換算の内訳である環境負荷とその構成比率は、
電力（83.2%）・ガソリン（12.4%）・廃棄物（4.4%）となり、前年07年度［電力（89.9%）・ガソリン（9.8%）・廃棄物（0.2%）］と比較して、
電力量の比率が6.7%減少しました。

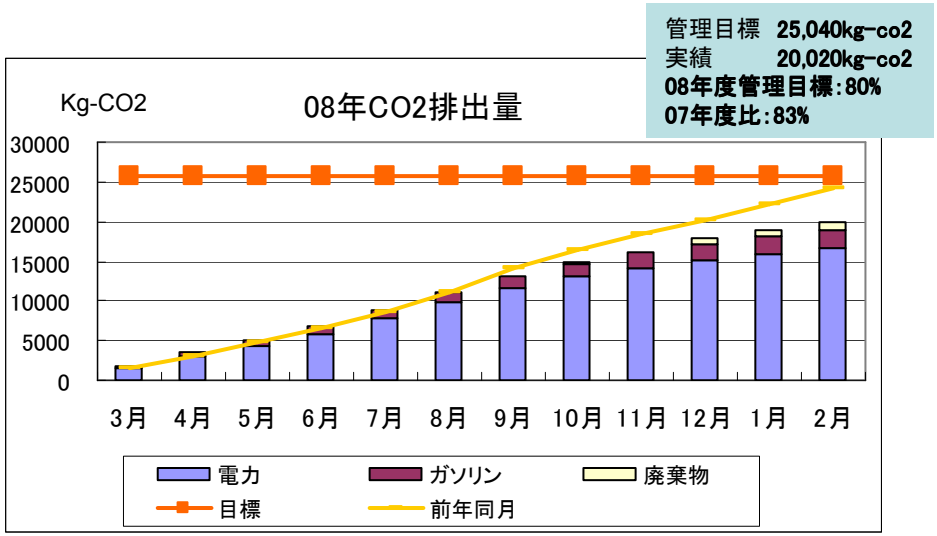

図 Ⅳ-3-1-1 08年度月別CO2排出累積量(kg-CO2)

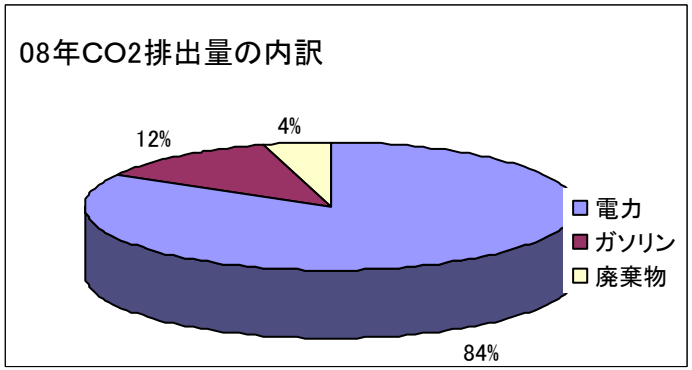

図 Ⅳ-3-1-2 08年度CO2排出累積量内訳

Ⅳ. 08年度環境目標とその実績

3. 項目別負荷実績

3-2　電力使用量

08年度の電力使用量は、**44,082kwh**の実績となりました。
この電力使用量は、**※管理目標：59,545kwh**の**74%**に相当します。
※管理目標=前年07年度実績（57,531kwh）×事業活動規模（売上計画比：1.15）×0.9（増分1割削減）
また、07年度実績に対し、**77%**となりました。
使用電力換算の内訳である電灯と動力の構成比率は、電灯(70%)・動力(30%) となり07年度［電灯(68%)・動力(32%)］とほぼ同様でした。

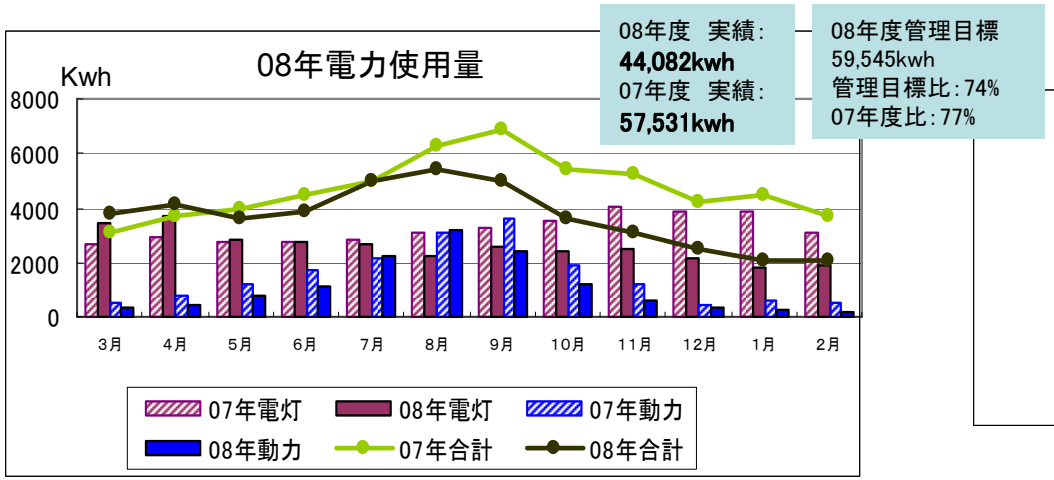

図 Ⅳ-3-2-1 08年度月別電力使用量（kwh）

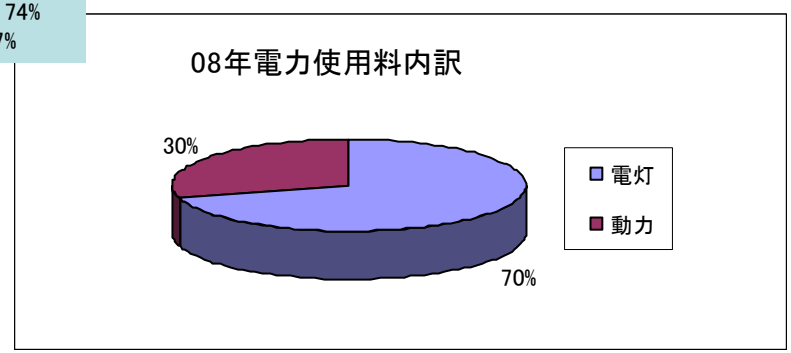

図 Ⅳ-3-2-2 08年度電力内訳（電灯、動力）

Ⅳ. 08年度環境目標とその実績

3. 項目別負荷実績

3-3 ガソリン使用量

08年度のガソリン使用量は、1,069.01Lの実績となりました。
このガソリン使用量は、※管理目標：1,061.48Lの101%に相当します。
※管理目標=前年07度実績(1,061.48L)x借上げ車台数（3台）の計上比(1.0)

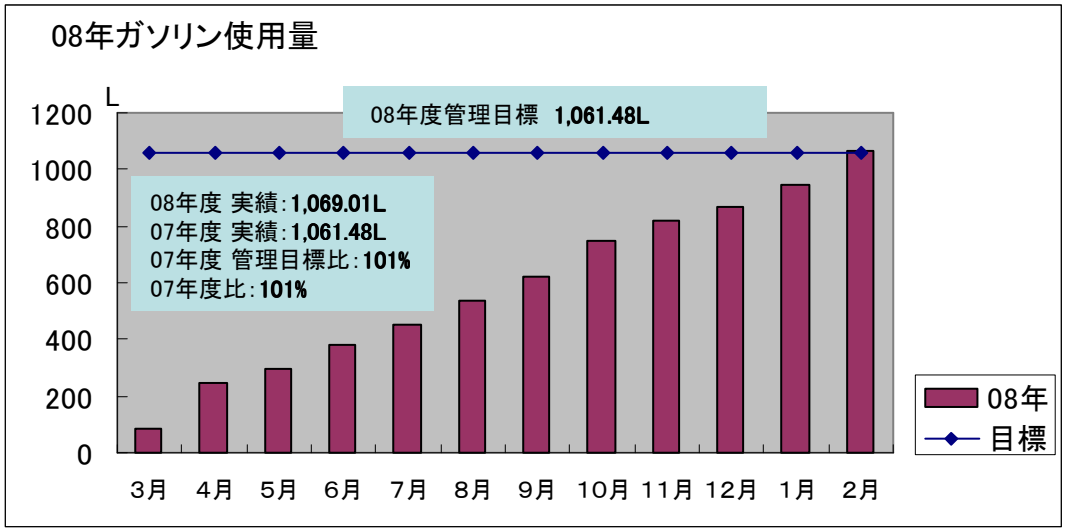

図 Ⅳ-3-3 08年度月別ガソリン使用量（L）

Ⅳ. 08年度環境目標とその実績

3. 項目別負荷実績

3-4 廃棄物総排出量

08年度の廃棄物総排出量は、**513Kg**の実績となりました。（事務所移転時の産業廃棄物300kgが発生の為、管理目標を超過した）
この廃棄物総排出量は、**管理目標：417kg**の**123%**に相当します。**※管理目標=417Kg（前年07度実績(417Kg)と同じ）**
廃棄物の内訳の構成比率は、再生利用できるものでは缶が1.3%、ビンが0.9%、単純焼却のものでは厨芥が14.6%、紙が17.6%、プラスチック類が5.4%、ペットボトルが1.9%で、その他に分類した産業廃棄物は58.5%でした。
07年度の内訳は、(缶:1.7%、ビン:1.0%、厨芥:28.4%、紙:14.6%、プラスチック類:5.5%、ペットボトル:3.2%、産業廃棄物は45.7%)でした。

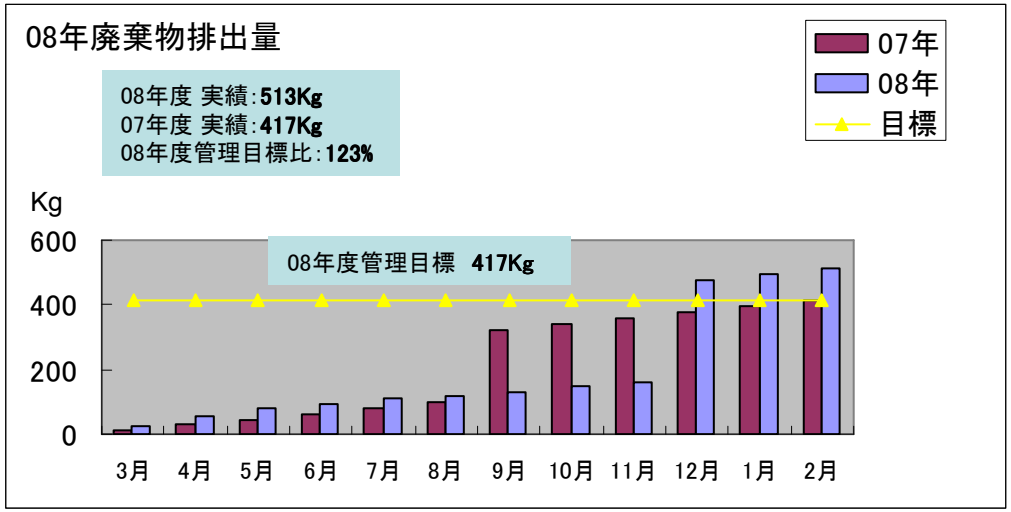

図 Ⅳ-3-4 08年度月別廃棄物総排出量(kg)

表 Ⅳ-3-4 08年度廃棄物総排出量(kg)内訳

種類	重量(Kg)	割合
再生利用	11.0	2.1%
カン	6.5	1.3%
ビン	4.5	0.9%
OA機器	0.0	0.0%
単純焼却	202.0	39.4%
紙	90.3	17.6%
厨芥	74.7	14.6%
ペットボトル	9.5	1.9%
他プラスチック類	27.5	5.4%
その他	300.0	58.5%
粗大ゴミ	0.0	0.0%
産業廃棄物	300.0	58.5%
合計	513.0	100.0%

Ⅴ. 主要な環境活動と計画の内容

1.主要な環境活動計画の概要

表 Ⅴ-1 主要な環境活動計画の概要

No	環境活動	08年度環境活動計画
1	**CO2排出量の削減（節電対策）**	不在場所の消灯を徹底し、また待機電力の節約のために、使わない電源プラグのコンセントは抜いておくことを心掛けたり、パソコンの電源を切った後、モニタの電源も忘れずに切る等、こまめな節電に取り組みます。サーバの温度情報収集を継続し、節電を図ります。
2	**廃棄物の削減（ゴミの分別）**	不要な雑誌や新聞等は纏めて回収し、紙ゴミの排出量を削減できるよう取り組みます。
3	**廃棄物の削減（紙類の溶解処理依頼）**	エコボックスを積極的に利用し、シュレッダーゴミの低減に取り組みます。
4	**OA機器のリサイクル廃棄依頼**	OA機器の廃棄の際には、リサイクル処理システムを利用します。
5	**エコ商品の購入**	エコ商品の購入だけでなく、物を大切に使い、資源の無駄を出さないよう取り組みます。
6	**エコ推奨チェックリスト**	月次レポートにエコ推奨リストを掲載し、社員全員が一ヶ月間の自分自身の取り組みをチェックします。 このエコ推奨リストの結果からできることを考え、改善していくことや新たな課題、目標を作り、 次月に達成できるよう積極的に取り組んでいきます。
7	**社内エコ促進活動**	エコ促進ツールを社内に掲示。毎月社内に取組を周知させるよう取り組みます。
8	**チーム-6%への参加**	CO2排出量6%削減を目指す、国民的プロジェクトに参加。 ひとりひとりができることを行い、他のチーム員の活動を参考にしながら、今後どのように 動くべきなのかを考えます。アンケート調査に参加し、チームの活動に貢献します。
9	**HP内環境ページの充実**	環境活動を広めるために、環境ページを充実させます。作成したエコキャラクターを使った 活動報告をしたり、EA21事務局、チーム－6%等環境関連のリンクを作成して、 環境活動を社外にも周知させていきます。
10	**緊急事態の対応**	緊急事態に備えた点検、訓練を怠らないようにしていきます。

Ⅴ. 主要な環境活動と計画の内容

2. 環境活動の内容

2-1　CO2排出量の削減（節電対策）

不在場所の消灯を徹底。待機電力の節約。サーバ温度情報収集を継続し、空調冷房電力の節電を図る。

事務所縮小移転となりましたが、事務所内照明蛍光灯に関しては、作業に支障のない範囲で
「三波長管＋ダミー管＋反射板」での節電対応を継続しました。照明スイッチは、会議室用を作業場所用と分離配線して
会議室不在時消灯を徹底しました。待機状態と電源オフ状態が表示で識別できる機器等（TV等）では、
未使用時は、電源オフ状態を徹底しました。
サーバ室自体の面積も配置密度も変化したが、継続して警報通知温度を設定しサーバマシン付近温度を監視しました。

2-2　廃棄物の削減（ゴミの分別）

６種類のゴミ箱を設置継続で分別を実施、新聞・雑誌及びダンボールは別回収。

茶殻、可燃ゴミ、不燃ゴミ、ペットボトル、缶、ビンと6つのボックスを使い、分別を継続しました。
廃棄時はゴミの計量を行い、記録を継続しました。 新聞・雑誌及びダンボールは別回収で廃棄し、再利用されています。

2-3　廃棄物の削減（紙類の溶解処理依頼）

紙類の溶解処理依頼でシュレッダーゴミを低減し、かつ再資源化する。

管理廃棄用書類や文書等のゴミは、鍵付きエコボックスを利用して処理しています。
鍵付きエコボックスの内容物は、金属等混入禁止物の混在がないかを確認して
回収依頼用エコボックスに移し替えます。回収依頼用エコボックスは、封印して回収時まで
鍵付きの室内で保管します。 契約先運搬業者に回収運搬されると処理場にて
エコボックスごとそのまま溶かし、100%再資源化されます。

写真 Ⅴ-2-3 エコボックス（紙類の溶解処理依頼）

Ⅴ. 主要な環境活動と計画の内容

2. 環境活動の内容

2-4　OA機器のリサイクル廃棄依頼

OA機器の廃棄の際には、リサイクル処理システムを利用する。

08年度のOA機器の廃棄及び廃棄依頼は、ありませんでした。

2-5　エコ商品の購入

エコ商品の購入だけでなく、物を大切に使い、資源の無駄を出さないよう取組。

08年度の事務用等消耗品の購入に関しては、エコ商品購入を優先するとともに品数と金額を継続記録しました。
エコ商品の購入比率は、品数ベースで7％（07年度43％）、金額ベースで3％（07年度57％)と大幅に減少となりました。
購入そのものに関しては、品数と金額が07年度比でそれぞれ86％と40％に減少しました。
古紙含有率での問題発生後は、エコ商品の選択候補が減少したこと、資源の無駄を出さない取組として詰替え用商品等が増加しましたが、詰替え用商品はエコ商品換算対象としていない等もエコ商品購入比率の低下につながりました。

表 Ⅴ-2-5　エコ商品購入比率

事務用等消耗品購入		08年度	07年度
品数	エコ/全数	4/56	28/65
	エコ比率	7%	43%
金額	エコ	¥1,886	¥88,315
	全額	¥62,424	¥156,192
	エコ比率	3%	57%

Ⅴ. 主要な環境活動と計画の内容

2. 環境活動の内容

2-6 エコ推奨チェックリスト

月次レポートにエコ推奨リストを掲載し、社員全員が1ヵ月間の取組をチェックし改善。

社内外におけるエコ活動を取上げ、課題と活動項目推奨リストを月次レポート内に提示しました。このエコ推奨リストの項目に対する自己チェックでの自己評価点を集計し、平均評価点が低い課題に関しては掲載を継続し、平均評価点が高い課題は、新たな取組課題や目標を作って差し替えて掲載する等、社内環境コミュニケーションの改善と各人啓発に取り組んでいきます。

表 Ⅴ-2-6 エコ推奨チェックリスト項目の取組結果 （自己評価点： 既に取組済（２点）/さらに取組必要（１点）、取組なし（０点））

エコドライブ	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
アイドリング・ストップを徹底する	1.9	1.6	1.6	1.6	1.7	1.8	1.6	1.7	1.7	2.0		
タイヤの空気圧が正常か調べる	1.8	1.6	1.6	1.6	1.6	1.7	1.6	1.6	1.5	1.9	1.9	2.0
エンジンをかけたらすぐに出発する	1.7	1.9	1.8	1.8	1.6	1.7	1.9	1.8	1.8	1.9	2.0	2.0
早めのアクセルオフ/エンジンブレーキを積極的に使いましょう											2.0	2.0
ゴミの削減	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
過剰包装は断る	1.7	1.9	1.7	1.7	1.7	1.8	1.7	1.8	1.7	1.9	2.0	2.0
ペットボトルは潰して廃棄する	1.7	1.7	1.9	1.9	1.9	1.8	1.9	1.9	1.9	2.0		
「つめかえ用」商品の購入を心がける	1.9	2.0	1.9	2.0	2.0						1.9	1.9
物を購入する時は必要な分だけ買う						1.8	1.8	1.9	1.9	2.0		
新聞・雑誌は「紙類」として纏めて捨てる（燃えるゴミに出さない）											2.0	2.0
節電	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
コンセントからプラグをこまめに抜く	1.3	1.6	1.5	1.6	1.4	1.5	1.4	1.4	1.4	1.4	1.8	1.6
未使用時のTVの主電源はOFFにする	1.7	1.7	1.7	1.8	1.7	1.6	1.7	1.8	1.8	1.7	1.8	1.8
エアコン・空気清浄機等のフィルターはまめに洗浄する	1.3	1.4	1.4	1.4	1.5	1.6	1.8	1.6	1.6	1.9	1.9	1.9

Ⅴ. 主要な環境活動と計画の内容

2. 環境活動の内容

2-7 社内エコ促進活動

エコ促進ツールを社内掲示、取組の周知

節電やゴミの分別等、普段より少し気をつけていかなければならない部分があります。
ゴミ箱の近く、ホワイトボード、冷蔵庫など、ふと目のつくところに関連ルールの周知や省エネを呼びかける掲示物を配置しました。

図 Ⅴ-2-7 掲示物での周知

2-8 チーム-6%への参加

チーム員の活動を参考に取組の取込み

チーム活動のホームページ内容から、取組課題の取り込みを行いました。
エコ推奨リストのエコドライブ取組は、「はじめよう！ エコドライブ」の内容とテーマを利用しました。

2-9 HP内環境ページの充実

エコキャラクターの活用。環境活動の社外周知促進

06年度に作成したエコキャラクター「nECO」ですが、
08年度も、このキャラクターを会社HPに登場させ、エコ活動の報告をさせたり、
エコに関するアドバイス等をメッセージ発信させました。

図 Ⅴ-2-9 BMエコキャラクター「nECO」

Ⅴ. 主要な環境活動と計画の内容

2. 環境活動の内容

2- 10 緊急事態の対応

緊急事態に備えた点検、訓練を怠らないように。

新規採用者の防災教育を実施しました。最終退出時の記録表に消防設備のチェック項を追加し、不良検出時（点灯不良等）にはビル側に報告し早急な対応を実施して頂きました。

表 Ⅴ-2-7-1 訓練・教育（緊急事態の対応）対応記録

対応項目	実施日	実施内容
1） 訓練または点検は、ビル側計画と併せて実施する。 ・初期消化訓練　6ヶ月に1度 ・通報連絡訓練　6ヶ月に1度 ・避難誘導訓練　6ヶ月に1度 ・自主・法定点検　6ヶ月に1度 ・防災教育訓練　6ヶ月に1度（採用等必要時は随時） 消防組織図および避難経路図を室内に掲示し、 消防計画の周知、火災予防・出火時の対応確認を教育する。	 H20.3.5 H20.9.16	 消防設備点検 消防設備点検
防災教育訓練：6ヶ月に1度（採用等必要時は随時） 1.（採用時）	H20.4.16	対象：新入社員、防災教育未経験者 日時：4月16日　11：30～12：00 場所：当社会議室 内容：自衛消防組織について 防火設備等について 避難先と避難の原則 受講者1名：H20.4採用者

表 Ⅴ-2-7-2 訓練・教育（緊急事態の対応）退出記録表での消防設備チェック項目の追加

退出記録表　　年　月

最終退出者は、下記の項目を確認チェック記録の上、退出<確認、SECOM>願います

*1）管理部は、前日最終退出記録を当日再確認願います。

*2）消防設備チェックは、非常灯の点灯や設備前荷物放置無を確認のこと

最終退出者時刻	電源・スイッチ（OFF）					錠（LOCK）				計量済ゴミ出	消防設備（*2）	その他連絡事項等
	電灯	空調（サーバ室以外）	加湿器扇風機等	COPYボード	TVチューナ	note PC	各自引出キャビネット	サーバ室	ベランダ			
佐倉井 22:50	レ	レ	レ	レ	レ	レ（施錠忘者）	佐倉井（施錠忘者）	レ	レ	レ（有無問わず）	レ	

Ⅵ. 環境保全活動の取組結果の評価

表 Ⅵ 環境保全活動の取組結果の評価

No	活動	取組	評価
1	CO2排出量の削減 （節電対策）	節電対策は昨年度同様の取組を継続し特段の取組を実施した訳ではありませんが、 下期の急激な売上減少への緊急対策として、事務所面積及び人員の縮小等 を実施し、事業活動規模が縮小したため、CO2排出量と電力量の消費が縮小しました。	**CO2排出量→前年度比80%** **電力使用量→前年度比77%**
2	廃棄物の削減 （ゴミの分別）	6種類（茶殻、可燃ゴミ、不燃ゴミ、ペットボトル、缶、ビン）と雑誌・段ボール等の分別を継続しました。 事務所面積縮小移転において、利用可能な事務用品等一部を引き取って頂きましたが 産業廃棄物（事務機器等廃棄：椅子、机等）が発生しました。	**産業廃棄物　300Kg（見積計上）が発生しました。**
3	廃棄物の削減 （紙類の溶解処理依頼）	エコボックス（20Kg/箱）で11箱分を溶解処理依頼しました。 廃棄物排出量削減だけでなく、Co2の削減にもつながりました。	**220Kg分相当が溶解処理で** **100%再資源化されました。**
4	OA機器のリサイクル処理	OA機器の廃棄及び廃棄依頼は、実施しませんでした。 廃棄待ちOA機器や記録媒体は情報セキュリティ対策を行い保管しています。	**OA機器（PC等）の廃棄はありませんでした。**
5	エコ商品の購入	古紙含有率等の問題以後、エコ商品となる対象が減少した影響と 事務用品自体の購入量も金額ベースで40%相当に削減したためエコ商品比率 自体は大幅に低下しました。また、カーボンオフセットに関しては通常利用の範囲での対象としてカーボンオフセット年賀ハガキの購入を行いました。	**エコ商品購入の割合（品数）→全体の7%** **エコ商品購入の割合（金額）→全体の3%** **全体の購入品数→前年度比86%** **全体の購入金額→前年度比40%** **カーボンオフセット利用→700Kg-Co2**
6	エコ推奨チェックリスト	月に1度の定例会議にてエコ活動の取組課題の推奨項目提示を行いました。 課題が達成されたら新しい項目を追加する取組は、継続できました。	**取組み課題の更新や追加継続ができました。**
7	社内エコ促進活動	掲示により周知や活動の促進を行いました。	**社内掲示で周知・活動促進を図りました。**
8	チーム-6%への参加	エコ推奨チェックリストの項目（取組課題）にチーム-6%の活動内容を取込みました。	**チーム-6%の活動内容が参考になりました。**
9	HP内環境ページの充実	ホームページ上でエコキャラクターによる環境活動のメッセージ発信を継続できました。	**環境活動の社外周知ができました。**
10	緊急事態の対応	訓練・防災管理教育は、H20年4月の中途採用者1名に実施しました。 最終退出者による確認項目に消防関係設備（誘導灯等）のチェック項目を追加しました。	**2008年度は、事故、緊急事態の発生は ありませんでした。**

Ⅶ. 環境関連法規への違反訴訟の有無

2008.03.01以前、
2008.03.01～2009.02.28の期間及び、
当該レポート作成完了（2009.04. 24）時点まで、
環境活動法規への違反、訴訟はありません。
当社の事業活動で関連する主な環境関連法規は、
以下の通りです。

・廃棄物の処理、清掃
　→**廃棄物の処理及び清掃に関する法律**
・家電製品、OA機器等のリサイクル
　→**家電リサイクル法**
・廃棄物削減、再利用
　→**資源有効利用促進法**
・エコ商品の購入
　→**グリーン購入法**
・包装容器（ダンボール等）分別収集
　→**包装容器リサイクル法**

各関連法規の状況は、右のURLを参照して、
一ヶ月に一度定期的な確認
（リンク切れ確認を含）を行っています。
また、県庁（神奈川県）や市役所（横浜市）、
チーム-6%の情報も併せて確認を行っています。

表 Ⅶ　環境関連法規等

主な関連法規	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 law.e-gov.go.jp/htmldata/S45/S45HO137.html	
家電リサイクル法 www.meti.go.jp/policy/kaden_recycle/ekade00j.html	
資源有効利用促進法 www.meti.go.jp/policy/recycle/main/admin_info/law/02/index.html	
グリーン購入法 www.meti.go.jp/policy/recycle/main/admin_info/law/09/index.html	
包装容器リサイクル法 www.meti.go.jp/policy/recycle/main/admin_info/law/04/index.html	
その他	
EA21	www.ea21.jp
消防法	www.houko.com/00/01/S23/186.HTM
チーム－6%	www.team-6.jp/
神奈川県	www.pref.kanagawa.jp
横浜市	www.city.yokohama.jp/front/welcome.html

Ⅷ. 09年度の環境目標

1） 単年度目標について

■各環境負荷の計画管理目標（前年度実績x事業活動規模比x0．9）による増加抑制・低減

表 Ⅷ -2 各環境負荷の計画管理目標

	08年度	09年度					
環境負荷項目	実績	事業活動規模前年度比	削減率	計画管理目標	実績	目標	他換算値
Co2	20.02（t-Co2）	1.15 売上計画比	0.9	20.72（t-Co2）	－（t-Co2）	＜20.72（t-Co2）	
電力	433.33（KMJ）	1.15 売上計画比	0.9	448.50（KMJ）	－（KMJ）	＜448.50（KMJ）	＜45,626（kwh）
ガソリン	36.99（KMJ）	1.00 車台数比	1.0	36.99（KMJ）	－（KMJ）	＜36.99（KMJ）	＜1,069（L）
廃棄物	513（kg）	前年度総排出量（産業廃棄物（PC等）を含む）	1.0	513（kg）	－（kg）	＜513（kg）	

Ⅸ. 09年度の環境活動計画

09年度は、下表の環境活動を中心に更なる改善に取り組みます。

表 Ⅸ　09年度の環境活動計画

No	環境活動	09年度環境活動計画
1	CO2排出量の削減 （節電対策）	電灯節電に関しては、「照度維持電灯数低減対策」、「不在箇所の消灯」、「待機電力の消費削減」の周知と実施の継続に取組みます。動力節電に関しては、「空調温度設定による稼働節約」、「冷房時の効率化」の周知と実施の継続に取組みます。
2	廃棄物の削減 （ゴミの分別）	6種類（茶殻、可燃ゴミ、不燃ゴミ、ペットボトル、缶、ビン）と雑誌・段ボール等の分別を継続して取組みます。
3	廃棄物の削減 （紙類の溶解処理依頼）	エコボックスを積極的に利用し、書類廃棄分の溶解処理による再資源化に継続して取組みます。
4	OA機器のリサイクル処理	OA機器の廃棄の際には、リサイクル処理システムを利用します。
5	エコ商品や カーボンオフセット商品サービスの 優先利用	事務用消耗品類は、必要最小限の購入にとどめ、購入の際にはエコ商品を優先します。 また、カーボンオフセット商品やサービスは通常利用の範囲で積極的に活用します。
6	社内エコ促進活動	社内環境コミュニケーションでの取組課題や活動改善の工夫や効率化に取組みます。
7	社外エコ周知活動	ホームページ内環境ページでの環境活動情報発信の工夫や効率化に取組みます。
8	緊急事態の対応	緊急事態に備えた点検、訓練を怠らないようにしていきます。